



僕は
星奈しか
要らない

I need only senna

ADULT
ONLY

R18

■部室■

「どうやったら出来るのかなあ……ともだち」
いつもの部室で机に向かって、だらしなく突っ伏しながら俺はタメ息と共に吐き出した。
「小鷹は男の友達欲しいんだっけ？」
エロゲをしつつこちらを見せせずに星奈が口を開く。
「あー。男がいいなー」
「ふーん……男なら紹介してあげよっか？」
ちらりとこちらを振り返って、
「どういのがいいわけ？あいつらあたしの言う事なら何でも聞くからより取り見取りだと思っけど」
「友達ってそうゆんじゃないだろう！」
「ひっ」
つい声を荒げてしまい、涙ぐむ星奈。
「す、すまん！言い過ぎた」
「まずい、今した俺の表情はかなり怖かったらしい……」
「あ、そう！あたしがわざわざ可哀相だと思って紹介してあげようと思ったのに」
もう二度と聞いてあげないんだからっ」
涙目で席を立ちながら言い放つ星奈。
「ま、まあっそう急がずに」
どうして良いか分からず多少へっぴり腰になる俺。
「どうい男が紹介出来るかだけでも、まず教えて欲しいなあ……なんて」
「……………ふうん」
「な……なんだ……よ」
「小鷹のそのヘタレ顔みて色々気が変わったわ……」
「どんなの紹介して欲しいわけ？」
「え……あ、ん……と……」
俺は断じてヘタレ顔などしてないが、ここで文句を言うほど莫迦ではない。
「……そうだな。こう、外見て人を判断しないで……」
「ふんふん」
「何でも相談したりされたり出来そうなのやっ……が」
「ほうほう」
「そう！信用出来るヤツがいいっ！」
「へー」
「へーって……もうちょっと真面目に……」
「今の条件だと紹介できそうなのは、そうね……27人かしら……」
「っ!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!」
「なによ、その顔……文句あんの？」
「星奈あああっ!!!紹介してくれえええええええっ!!!」
我を忘れて飛び付く俺。
「うわウザッしがみ付くなっ!!!さっき気が変わったって言ったでしょ」
「そんな事言わないで紹介しろよいや、紹介してくださいいいいいっ!!!」
「紹介しないなんて言ってないでしょうが!」
「いいから離れてよ!!せ、つ、め、い、させろっ!!!」
必死にしがみ付いていた俺をプワッと無理やりはがす星奈
「はあはあ……すう……はーあ、いい?説明するわよ」
真っ赤な顔でにらみ付けてくる星奈。
よほど強しがみ付いてしまったらしい。
「お、…おう」
「神であるあたしが情けをかけてあげたのにもかかわらず断った以上、条件を出すわ」
仁王立ちで喋りだす星奈、
あいかわらず自分の事を神とか残念すぎる……。
「……条件？」
「そうよ条件、そうね……あたしを小鷹ちゃんと一緒にベッドで寝させなさい」
「はい？」
顔をそらしつつ、どんどん顔が赤くなる星奈
「それが出来たら小鷹と友達になりそうな男を紹介してあげるわ」
「そんな事なら別にいいが……」

「いいのっ!!!??」
目をむいてこちらを見る星奈……。
同姓なんだから別にかまわんと思うが……心なしか危険な感じが、
というか鼻息が荒いな……こいつ。
ん、そういえば星奈にまわり付かれて小鷹が嫌がってたか、
一緒に寝るって言ったら嫌がりそうかな……?
「小鷹に聞いてみてからな」
「いよっしゃああああっ!!!」
!
突然叫びだした星奈に驚く俺。
「絶対小鷹ちゃんに聞いてよね!絶対よ絶対!
あとは一緒にお風呂入ってご飯の時にあ〜んてしてあげて……」
「まてまて、どこまで増やす気だ」
さすがにご飯をあーんとかされたら誰でも嫌がるだろ
「何言ってるのよ、あんた友達欲しくないの？」
「くっ」
「まずいっ、ここを通すととどどん無茶な注文が通る事になる
なんとかしないと、なんとか……………」
「星奈も紹介したあとに俺と友達になるかどうかは俺任せだろ？」
「当たり前じゃない」
「俺も小鷹と星奈と一緒に寝る所までは斡旋する。
そのあとは星奈任せだ。これでどうだ？」
これならうまい事……
「だから条件だすっつってんじゃん、なんて対等気分なのよ」
だめか!くそっ……あと……あつ
「じゃ……じゃあ……勝負しないか？」
「あん?勝負とか何言ってるの？」
「勝負して勝った方の言う事を全力で叶える。これでどうだ？」
「それならいいわよ。あたしが負ける訳ないもの」
きたっ!よし!!あとは負けない勝負にどう持ち込むか……

■小鷹の部屋■

「へー。ここが小鷹の部屋かー。って案内片付いてるのね」
「どんな所だと思ってたんだよ。片付けるのも好きだけど、
小鷹もたまに寝にくるからな教育上綺麗に——」
「え!?まじ?ここで小鷹ちゃん寝てんの!？」
言い終わらぬ内に俺のベッドにダイブする星奈。
「こぼとちゃーん……」
思いっきりベッドにうつ伏せになり、匂いをかく星奈。
「ぶほおっ!!小鷹の匂いしかしないっ!!!」
「俺のベッドだ当たり前だろう」
勝手に嗅いでおいてむせる事はないだろう、
少し傷つくじゃないか……
「て、くさいならさっさとベッドから顔離せよ」
「あ、そ、そうよね」
そそくさとベッドに座り直す星奈。
息でも止めてたんだろうか、顔が真っ赤だが……
あ、だんだん凹んできた。
「で?……ど、どんな勝負にするの？」
「それなんだが……お互いに抱きしめ合うチキンレースでどうだ？」
そう、考え付いたのがこれだ。男は下僕や奴隷で
自分が女神だと思っている星奈が男の俺に抱きつかれて
我慢できる訳がない!これなら勝てる!!
て、なんでまだ顔が赤いんだ?
「だ、抱きしめっあっ合って逃げた方が負けって、わけね」
ふ、さっそく動揺してるな。もう勝ったも同然だろう。
「ああ。勝負中に変な誤解されないように
わざわざ人のいない俺の部屋まで来てもらったんだ」
「ひっひとがない!?え??え?小鷹ちゃんやお父様は!？」
「父さんは仕事で留守だし小鷹は部室だろう?今は二人だ」
「!」
落ち着きをなくす星奈……なにやら深呼吸を始めたが……
ハグチキンレース(今決めた)をするのに
そこまで覚悟が必要か……
「い……いいわよさあ」
「お、おう」



僕は
星奈しか
要らない

か……
確認するわよっ!

お
おうっ

抱きっ

……締め
合おうとして
……逃げた方が
負けで

相手の言う事を聞く

ああっ

……いくぞ

いいわよ……

いいわね

……スタート

ギ
ギ
ギ

に……

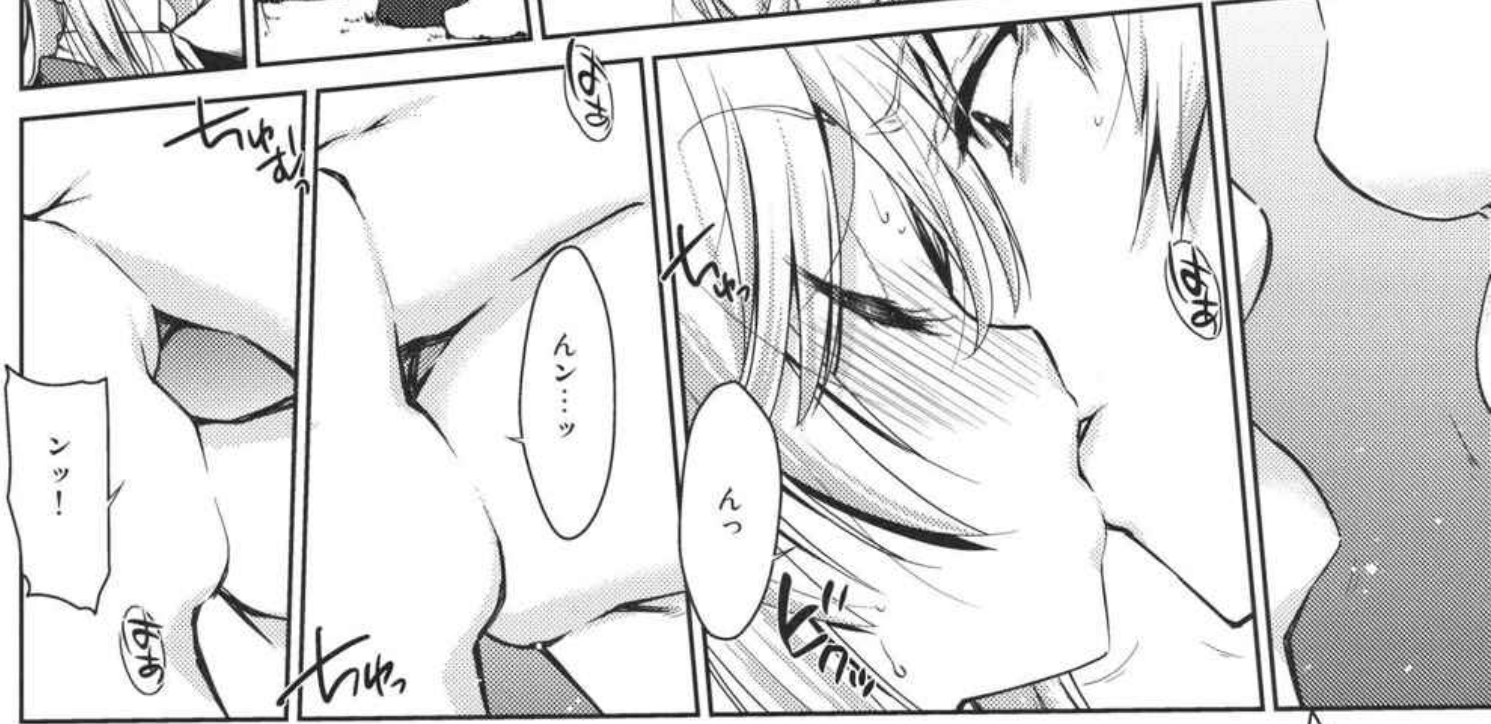
あたしが

……逃げないのか?

逃げるわけ
ないでしょ









んっ…ん…

ふ…っ

あ…っ…あ…っ…

あ…っ…ん…

小鷹…

星奈

…っ…

…っ…

…っ…

…っ…

…っ…

…っ…

…っ…

…っ…

…っ…

…っ…

…っ…

…っ…

…っ…

…っ…

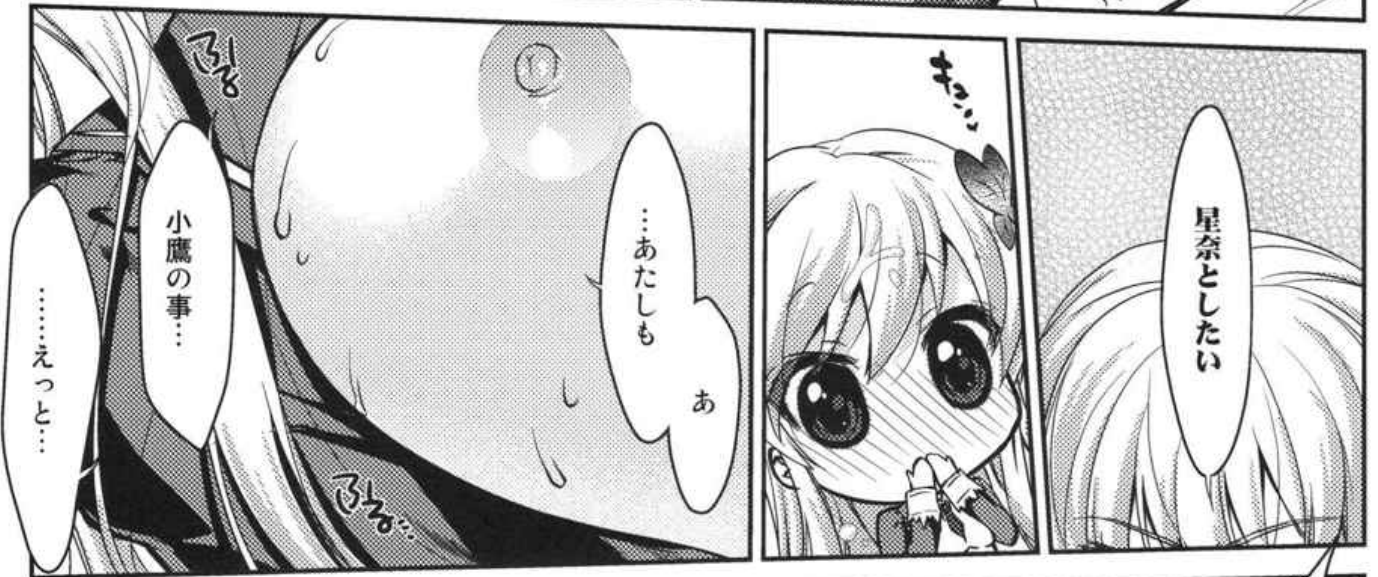
…っ…

…っ…

…っ…

…っ…







痛いわよっ!!

痛い

痛い



けど

大丈夫っ……

痛いか

そのまま動いてっ



当たり

前でしょう



つらそうだけど

はっ
初めてなんだからっ



わからねえよ

あんたも

俺だって

初めてなんだから

初めてだったの？

わるいかよ

...えへへっ

出るっ







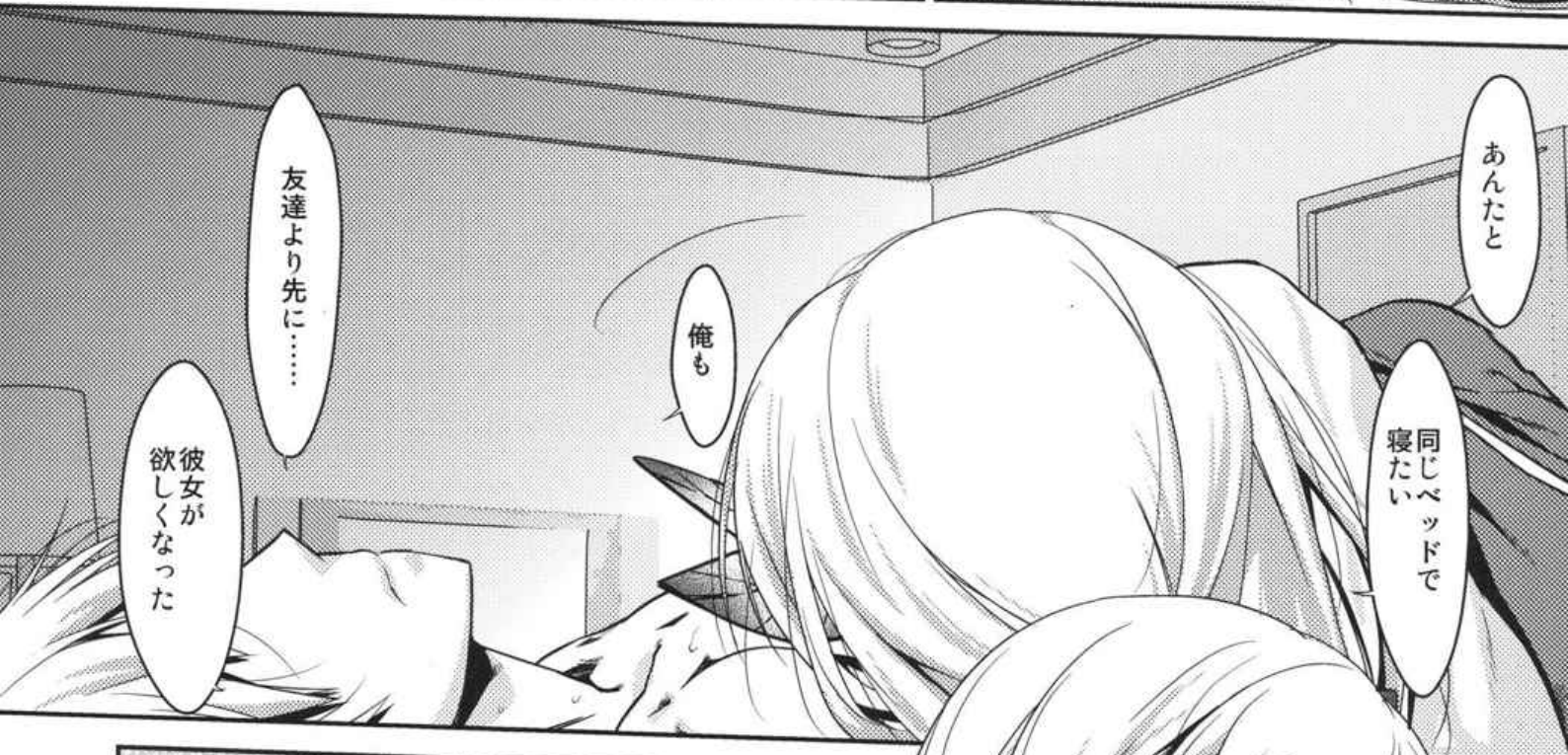
ん？

あたしの
お願い変える



小鷹

あの
ね……



あんたと

同じベッドで
寝たい

俺も

友達より先に……

彼女が
欲しくなった



なら……

……ちゃんと
言ってみよう



付き合おう…

……星奈

77 End

僕は
星奈しか
要らない。



金髪っつはとモむすかしいので、
くらちゃん同様、苦労しましたが
お肉が描けてうれしいです!!

あま

あま
あま



こんにちは!(・ω・*)

ななせめるちです。今回は「はがない」の星奈たん本になりました。
第一印象から気になってはいたのですが、お話を読んでより好きに
なりました!髪のちょうちょもかわいいです♪

「はがない」が大好きな方も、まだ読んだことない方も、
楽しんでいただけると幸いです!
ユニバース!!

ななせめるち

めるちーお II

僕は星奈しが要らない

発行 生クリームびよい
発行人 ななせめるち

2010年10月発行
印刷 コーシン出版さま

<http://nanamel.blog77.fc2.com/>

禁無断転載・禁無断複製

18歳未満の方の閲覧はご遠慮ください

免責

本書の内容に関し本書発行人は
いかなる保証もいたしません。



I need only senna